

● CONTENTS ●

1. 学術交流提携校訪問記
2. 特集／国際交流
堀井学長の訪問校からのメッセージ
第19回アメリカ短期留学報告
平成10年度学生海外留学・研修募集中
6. 平成10年度学生募集案内
学生による事務窓口評価について
8. CAMPUS LIFE／学内奨学生決定
リーダーシップ・宴祭
11. 日本塑性加工賞受賞
12. 山寺秀雄名誉教授による「特別講演会」
第4回「研究報告会」
14. INFORMATION／図書館・学生室

1997.10.15

大同工大 DAIDO CAMPUS

No.22

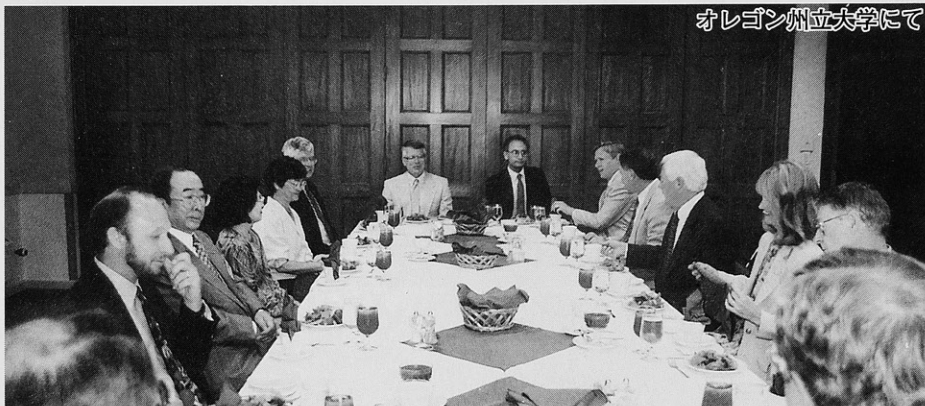
キャンパス

編集・発行 大同工業大学広報室 〒457 名古屋市南区滝春町10-3 TEL052-612-6117(直)

学術交流提携校 オレゴン大学・オレゴン州立大学訪問記

学長 堀井 憲爾

オレゴン州立大学にて



8月の暑い盛りに、名古屋空港から9時間で日本に最も近いアメリカ西海岸のオレゴン州、ポートランド空港に着く。車で2時間足らずハイウェイを南に走れば、オレゴン州立大学がある。ここコバリスは、森の中の静かな大学町である。涼しいのが何より嬉しい。

大同工業大学とは1981年以来、事口教授を始め多くの先生方が留学し、またここから大同工業大学に先生が訪れている。学生総数は2万人に近く、アメリカでも有数の、理工系大学として発展している。現在1年間留学中の機械工学科松浦助教らの案内で学内を見て回る。立派な建物を囲む美しいキャンパスにはため息が出る。

Risser 学長、Van de Water 国際教育部長、West 工学部長、Reistad 機械工学科長らと懇談し、今後更に大同工業大学とは緊密な関係を強めていくことを確認した。日本人職員の Aki さんにいろいろ面倒を見ていただけるのも有り難い。

本学の機械工学科を平成8年3月卒業の留学生久野君が、マスターコースに進学するため頑張っているのも頼もしい。

翌日は、再び車で1時間足らず更に南に走れば、目指すオレゴン大学に着く。ここも森の中に大学がある小さな町ユージンである。オレゴン大学の歴史は古く明治9年の創立で、その最初の入学生22名中2名が

日本人であったと聞く。オレゴンがいかに日本と関係が深いのか、また、明治の日本人の国際性がいかに進んでいたかを思う。オレゴン大学は学生総数1万7千名の文系を主とする大学であるが、本学から建築や教養

フォルニアやニューヨークなどの都市より遥かに恵まれている。

この大学の学長とは東京で一度お会いしている。留学生受け入れの責任者 Mills 博士らと懇談したが、最近本学の留学生が減っていることを憂慮していた。かつては、夏期に50名を越える留学生が訪れた

が、今年はやっと10名という状態になっている。日本の旅行社が割安の旅行プランをいろいろと出して、アメリカ旅行も珍しくなったとはいえ、語学やコンピューターの研修からホームステイや各地の見学を組み合わせたこの研修コースは、ひと味内容が違っている。

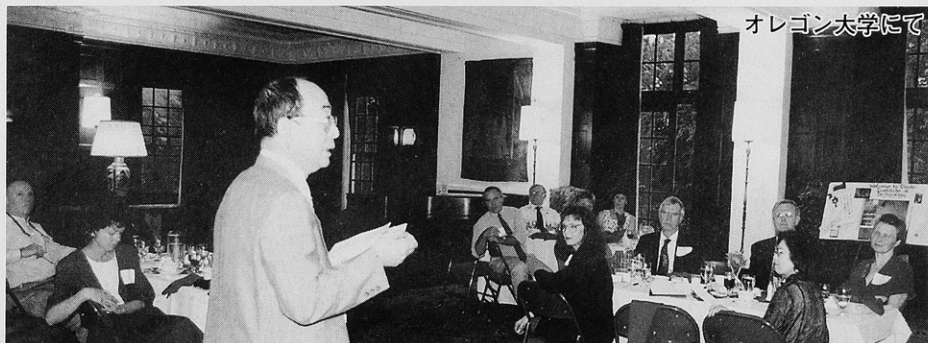
学生達は一生懸命勉強し、楽しそうにアメリカ生活を送っていた。今や日本の工業は、製品の輸出や技術交流のために、技術者には何よりも国際性が要求される。一ヶ月の短期間ではあるがこの経験は、将来大きく育つ芽を学生達に植え付けてくれるであろう。彼等と昼食を共にし話し合ったときの彼等の生き生きとした顔を私は忘れない。一ヶ月後には、ひと皮むけた大人に成長して元気な顔を見せてくれることを期待しながら、ユージンの町を後にした。

～アメリカの大学へ留学の勧め～

の先生方も留学している。

この大学は積極的に外国、特にアジアから留学生を受け入れており、その総数は千数百人という。大学内の寮や教室を見て回ったが、行き届いた設備を使って留学生を大事に教育しているのがわかる。とにかく、大学を中心として静かで安全な空気に包まれた町で、じっくりと勉強するには、カリ

オレゴン大学にて





UNIVERSITY OF OREGON

26 August 1997

President Kenji Horii
Daido Institute of Technology
10-3 Takiharu-cho
Minami-ku, Nagoya 457
JAPAN

Dear President Horii:

Dear President Horn:

Ms. Susan Plass has delivered to me the beautiful cloisonné plate that you presented to the University of Oregon at the dinner on 21 August. It is an excellently crafted piece of art, and I extend my thanks on behalf of the university for your gift. The plate brightens my office, even on a gray, rainy day such as today, and it serves as a fond reminder of the beauty of Japan during cherry blossom season.

I hope that you and your wife enjoyed your brief stay in Eugene. Once again, I deeply regret not being able to see you last week. The relationship between the University of Oregon and Daido Institute of Technology is remarkable in its durability and mutual benefits. I value our partnership, and I hope that next summer I will be available when the annual DIT-UO celebration dinner occurs.

Thank you, once again, for the beautiful gift.

Kindest regards,


Dave Frohnmaier
President

DF/sep

堀井学長殿

拝啓 8月21日の晚餐会の席上、あなたからオレゴン大学に恵贈されました美しい七宝焼飾り皿を本日スーザンプラス女史から受け取りました。まことに素晴らしい芸術作品を頂戴し、大学を代表して深謝いたします。この飾り皿で、今日のようなどんよりとした雨の中でも、学長室は明るくなりますし、なによりも桜花咲き乱れる季節の日本の美しさを懐かしく思い出させてくれます。

学長ご夫妻には、短期間ではごさい
ましたが、ユージンでのご滞在を楽しんで
頂けたことと思います。しかし先週お会い
できなかったことをかえすがえすも残念に
思います。

オレゴン大学と大同工業大学との友好関係は、その永続性とお互いの提携を尊重すると共に、来年には恒例の大同工業大学・オレゴン大学提携祝賀晩餐会の席でぜひお会いできるのを楽しみにしております。

敬 具

敬 具

ディヴ フローンマイヤー
オレゴン大学長

堀井学長の 訪問校から 届いた メッセージ

オレゴン州立大学長から

OFFICE OF THE
PRESIDENT

September 2, 1997

President Kenji Horii
Daido Institute of Technology
10-3 Takiharu-cho Minami-ku
Nagoya 457
JAPAN

Dear President Horii:

On behalf of Oregon State University, please accept our appreciation for your visit to our campus. We thoroughly enjoyed meeting you and Mrs. Hori. And, we were pleased to have an opportunity to discuss our continuing collaborative program. With such a long history of cooperation, it is my hope that we continue this relationship and perhaps even expand it in the future.

Mrs. Risser and I remain,

Mrs. Risser and I especially want to thank you for the lovely ANDO plate. It is very lovely, and we are thankful for your generosity. I hope we will have an opportunity to visit you in Japan and learn more about Deide Technology.

Sincerely,

Paul G. Risser
President

cc: Jack Van de Water

Telephone
541-737-4733

Fax
541-737-1013

堀井学長殿

拝啓 オレゴン州立大学を代表して、堀井学長の我が大学への表敬訪問に対し、心から感謝申し上げます。学長並びに学長夫人とお会いできて大変嬉しく思います。その上現在引き続いて実施中の学術・教育交流に関する共同計画について話し合う機会を得て満足しています。このように長い歴史を持つ提携のもとに、今後ともこの関係を継続し更に一層発展させていきたいと願っております。

私は妻と特にあの素晴らしい「七宝焼き」飾り皿の贈答に与り、心よりお礼申し上げます。全く素晴らしい絵皿ですね。

ご親切有り難うございます。是非日本を訪れ、あなたにお会いし、大同工業大学について更に多くのことを学ぶ機会を得たいと希望いたします。 敬 具

敬 具

ポール リッサー
オレゴン州立大学長

オレゴン大学 Tom Mills から

拝啓 オレゴン大学においておこなわ
 れた1997年度大同工業大学短期留学サ
 マープログラムの最大の成果は、留学生自
 身がコンピュータ操作によってWEB
 PAGES（インターネットホームページ）を創
 作し、開設したことでした。オレゴン大学は
 国際的コンピュータ・ネットワーク交信技量
 に関してはアメリカ合衆国内随一の地位を
 占めている関係上、この事実はまことに感
 動的な成果といえます。

私達は第19回サマープログラム実施中に、大同工業大学長をここオレゴン州ユージンの地にお迎えすることが出来て大変光栄に存じます。

堀井学長は、オレゴン大学副学長をはじめ大学教職員並びにユージン市キワニスクラブ会員の皆さんから心からなる歓待を受けられました。その席上、堀井学長の意義深いオレゴン大学訪問を記念して、高名なオレゴン州の先駆的芸術家によるパステル原画が堀井学長に贈呈されました。

さて、短期留学の伝統的行事である修了式においては、学生諸君はひとりひとり、オレゴン大学を去るに当たって恩を受けたA E I（米語研究所）の先生方に対し、英語力の向上に関して感謝の言葉を述べ、敬意を表しました。オレゴン大学キャンパスの素晴らしい「自然」は、常に学生諸君の人気の的であり、リスを見つけ、緑の巨木を見上げては、口々に賛嘆の声を上げたものでした。

最後に、多くの学生諸君が将来もオレゴン大学に戻って勉強を続けたいと強く希望していることを申し添えます。

手紙にあたり、今年度のサマープログラムの実施において成田先生が示されました指導力は素晴らしく心から賛辞を呈します。

私達は来年1998年度の第20回大同工業大学短期留学サマープログラムに参加する学生諸君を歓迎できるのを楽しみにしています。

敬 具

敬 具

トーマス ミルズ
国際交流センター長

短期留学のすすめ

引率教員 成田淳一郎
〈数学教室 講師〉

今回短期留学の魅力は、文章ではとても伝えきれません。特にキャンパスの美しさや、アメリカの大自然に関しては写真でないと伝わりません。それでも実物にはかないません。

まず思い切り英語を使う必要があります。必要は発明の母とかいいいますが、勉強の母でもあります。到着間もなく学生の皆さんは三日間のホームステイに旅立ち、一体全体何ほどの事が出来るのであろうかという心配をはねのけ、いかなる手段でかホストファミリーと親交を深め、以下滞在中しばしば招待され、また泊まりに行くという学生もいます。ちゃんと日本に帰ってくれるか心配になります。

オレゴン大学での授業は過去の蓄積のもと、D I Tの学生によくマッチしたものとなっている。例えば Computer Workshopでのホームページ作成に用いる写真を、次の

English
Conversation Skills
の時間にキャンパス内を学生の皆さんが選びながら、撮影して回るといった工夫されたものになっています。なおこの写真は次のホームページ上で見る事が出来ます。

(<http://darkwing.uoregon.edu/~leslieob/daidoprojects97.html>)

オレゴン大学の学生との会話の時間もあり、彼らは夜にも寮を訪問してくれてD I Tの学生と大いに盛り上がっていました。

アメリカという自己主張の強さばかり連想しがちですが、知ってはいたけれどもこちらで使い方を学んだ単語の一つが available です。「お役に立ちます」というような意味ですが、単に「居ます」というような意味でも使われていました。常に誰かの役に立つことを考えている表れのような気がします。



左が成田先生

せんか。

最後にこの文章はオレゴン大学の学生寮 (Dormitory) にて持参のノートパソコンに入力したものを電子メール (email) で送っています。寮の各室には同様のコンセントが備わっており、つなぐとすぐに使えるようになっています。二日後にはここを去り、オレゴン州立大学訪問や、移動しながらの小旅行、ポートランドでの自由研修を経て、帰国の予定です。

失敗を恐れず積極的に

94M122 竹内 誉人
(写真・右から3人目)

今回の短期留学では、人数が少なかったためアメリカコースのみでした。僕は2年前、同じ短期留学でヨーロッパへ行きました。2つのコースを

比較してみると、ショッピング・乗馬を楽しむたいのならアメリカコースです。一方ヨーロッパは、毎晩ナイトクラブやパブへ行ったりする企画があります。そして、両方週末に小旅行の企画がありました。ただ、ホームステイはアメリカのみでした。

まず、ホームステイは、二人



96D105 服部 浩平(写真・左から2人目)

ホームステイ先の子供達は、一生懸命日本語を勉強していた。自分の英語に対する取り組みを考えさせられた。

一組で着いた次の日から3日間でした。ただ、僕とルームメイトだけ週末に連絡を取って、週末は全てホストファミリーと一緒にキャンプやアウトドアウエディングへ行ったりして過ごしました。もちろんホストファミリーの家にも泊まりました。

U of Oでは、アメリカンカルチャー、コンピュータ(e-mail・インターネット)、フリスビー、チューターとの会話のクラスが2種類ありました。これ以外にも授業時間以外でもコンピュータやLL教室が自由に使えるので、開いている時間であれば大体どちらかをしていました。

反省点は、2回目のホームステイの時、僕とルームメイトが待ち合わせ時間に間に合わず、ホストファミリーの人が帰ってしまってもた迎えに来てもらうという事になり、かなりの迷惑をかけてしまいました。

今後短期留学へ参加する人へのアドバイスとして、常に積極的にネイティブや学生に話しかけ、LL教室等の施設を毎日使用すれば、英語(会話)はかなり上達すると思います。それと同時に授業や会話の時に、失敗してもいいから必ず口に出して、なるべく間をとらないようにするといいと思います。さらに口の開け方にも注意すればかなりスムーズに会話出来るようになると思います。



国際交流提携校を訪問中の堀井学長が
オレゴン大学にて、本学の学生と合流。
懇談会が開かれた。

93D080 富田 太一(写真下・左)

空港で僕は、日本に帰りたくないと思った。
金に変える事の出来ない友達と経験を手に
した時間が終わるのが嫌だから。



96E163 渡邊 光一(写真上・右から2人目)

今の自分の目的の一つは英語を流暢に話す
ことで、これからおとしにアメリカへ行って貴重な体
験が出来ました。



96C081 古川 安世(写真・右)

野生の鹿に会った。あらいぐまも見た。
リスもいた。色々な仲間に出会えた。たく
さんの思い出が出来た。

96C056 田中 伊吹(写真・左)

あっという間に時間が過ぎてしまった
みたいで、もっとオレゴンにいたかった。
ホームステイもまたしたいです。



96M115 鈴木 伸一

今回の短期留学では
多くの人達と出会うことで、
本来の目的以上のことを
学び大変に有意義な
ものでした。



96M134 竹島 裕人(写真・左)

あっという間に過ぎた1ヶ月間だったが、と
ても楽しくいい経験にもなった。また、いつか
長期間行ってみたいと思う。

学術交流提携学に滞在して

卒業者は入学者の2割程度

海外留学 松浦 章 裕(機械工学科 助教授)

本年4月1日よりオレゴン州立大学工学
部機械工学科に1年間留学しています。

オレゴン州立大学(OSU)は人口45,000
人のコバリス市にあり、約半数が大学に関
連し、まさにコバリス市は大学町といえ、極
めて安全友好的で、親切である。市内に約
6,000人が従事するコンピュータ会社の
大工場があり、ハイテク産業の町でもある。

OSUは11学部を有する総合大学であり、
7校ある州立大学ではトップにランクされ、
特に森林学部・海洋学部・理学部・工学部
は全米でも高位にランクされている。

本学とOSUの提携は17年に及び、とりわ
け工学部との提携は他大学とは一線を画
するほどの交流がある。これまで本学から
多数の教員・学生が留学してきたが、滞在

中の研究・勉学に対して工学部全体で親
密に対応が行われ、まさに痒いところに手
が届く対応を受けてきた。

私の所属する工学部は8学科から構成さ
れ、その基幹学科は機械・土木・コンピュ
ータ関連の学科である。教育システムは日本
と異なり、対話を伴う講義と、多くの宿題が
あり単位の取得は極めて難しい。機械工学
科では、4年間で卒業できるのは入学者全
体の2割程度であり、総卒業者は約半数し
かない。

大学全体では特にコンピュータ関係の教

長いようで短かった1ヶ月間、本当によかった

96M169 成田 規行(写真・右)

まず、このアメリカ短期留学に行った事に対して漠然として言葉では言い表せないけれど、本当にいい経験をさせてもらったというのが正直な気持ちです。

僕らが行ったオレゴン州ユージンのオレゴン大学は、大同工大の何倍もの大きさが多くて静かで、外の木に野生のリスやアライグマなんかいたりしてとてもどかだった。

3日間という短い期間でのホームステイ、日本の授業とは全く違って1日1日がとても新鮮だった。授業が終わればバスに乗ってショッピングしたり、片手にポップコーンを

持ちながら映画を見たり(ちなみに\$3.00)、そして行く所すべて英語なので自分なりの英語とゼスチャーを交えながら、相手に自分の言っていることが通じたときは、感動一步手前と言ったところ。

なんかこれを見ているといいことばかり書いているが、もちろん苦しかったこともあった。日本食が恋しくなったり、風呂に入りたくなったりetc...

まあそんな感じで長いようで短かった1ヶ月、行ってみて本当によかった。これにつきます。来年もまたこの短期留学に参加してみたいし、学校の人々に言えるんだけど、自分みたいに目的なんかなかったって何となく行きたいと思っている人は、ぜひ行って見て、感じてみて欲しいと思います。



97A093 安原 和寿(写真・右から2人目)

4週間なんてあっという間でした。もっといたかたです。またいつかきっと英語を勉強して、アメリカや他の外国にも行ってみたいです。

育を重視し、設備も整っている。これは、当機械工学科のEWSが本学の計算機センターの数倍の能力を持っていることから、その力の入れようが伺われる。このような参考とすべき事項を取り入れるためにも、ますます両校の教員の交流を深めていくことが重要です。

さらに今年度より、教育研究者のみならず大学院生間の交流も行われ、OSUの学生が本学を訪問しているが、今後このような事業を通して交流が盛んになることが期待できる。特に今年度は本学堀

井学長がOSUのRisser学長を訪問し、親しく交流に関して討議を行い、さらに工学部各学科長との懇親を通じてさらなる提携の発展を確認されました。

また、現在、本学卒業生の久野君がOSU機械工科大学院へ入学を目指して奮闘していますが、多くの卒業生が後に続くことも両校の交流に寄与すると思われま。す。おおいに学生諸君の奮闘を期待してOSUからのメッセージといたします。

平成10年度 学生海外留学・研修 募集中

募集期間：平成9年7月28日～10月20日

選考期日：平成9年10月23日(面接)

海外にて留学・研修を希望する学生に対し、本学が学術教育基金等により経済援助を行い、学生の国際感覚の育成と視野の拡大を図ることを目的とし、併せて本学の国際交流の推進、学術交流提携の充実を目指す一つの制度です。

平成3年度から継続し、毎年度数名の学部学生・大学院学生が海外体験をしています。

■ 海外留学は、TOEFL等の得点が、各外国の大学毎に設定され、学部で500点程、大学院で550点程は必要です。本学の留学規定に基づき単位取得が認められる制度です。

<学部・大学院>

時期／期間：平成10～11年度／1年間
援助額：75万円(渡航費＋奨学費補助)

* 授業料の一部負担

■ 海外研修は、大学院学生が視察研修にて研究環境等見聞を広げることを、また学部学生が語学研修にて語学力向上により今後の留学への足がかりとなることを目的としています。

<学部>

人 員：1名

時期／期間：平成10年度／6カ月間
援助額：75万円上限

(渡航費＋奨学費＋研修費補助)

<大学院>

人 員：2名

時期／期間：平成10年2月～12月
／2週間以内

援助額：18万円上限

(渡航費＋奨学費補助)

* 募集の詳細は、「募集要項」・掲示または学生室にて確認して下さい。

《平成9年度》

学 部：オレゴン大学 A.E.Iにて1名研修中です。

大学院：中国科学院にて10月に1名、中国で初めての研修です。

* 修了後に報告会を開催します。

平成10年度

大同工業大学学生募集案内

1. 学部

募 集 定 員		入 試 種 別	出願期間	試 験 日	試験会場	合否発表	入学金納入締切日	授業料等納入締切日
機械工学科	195名	女子学生推薦入学試験	9.10.21(火) ～10.28(火)	9.11.9(日)	本 学	9.11.15(土)	9.11.28(金)	10.3.23(月)
		工業高校推薦入学試験						
電気工学科	130名	推薦入学試験	9.11.6(木) ～11.18(火)	9.11.30(日)	本学・静岡・松本・金沢 大阪・広島・高松	9.12.8(月)	9.12.25(木)	10.3.23(月)
建設工学科 土木工学専攻	80名			9.12.1(月)	本 学			
建設工学科 建築学専攻	80名	前期入学試験 〔外国人留学生入学試験〕	10.1.8(木) ～1.22(木)	10.2.6(金) 機械・土木・応用電子	本学・東京・静岡・松本 金沢・大阪・広島・高松	10.2.14(土)	10.2.24(火)	10.3.23(月)
				10.2.7(土) 電気・建築				
応用電子工学科	110名	大学入試センター 試験利用入学試験	10.1.12(月) ～1.30(金)	個別試験はありません。		10.2.20(金)	10.3.2(月)	10.3.23(月)
		後期入学試験 〔委託学生入学試験〕	10.2.23(月) ～3.4(水)	10.3.13(金)	本学・静岡・金沢 大阪・岡山	10.3.19(木)	一括納入	10.3.26(木)

(注) ①外国人留学生入学試験の試験日は、2月7日(土)です。②出願受付は、締切日当日消印有効です。

2. 大学院 工学研究科

	募集定員	出願種別	出願期間	試験日	合否発表	入学金納入締切日	授業料等納入締切日
修士課程	機械工学専攻 8名	後期募集	10.2.10(火) 2.18(水)	10.2.27(金)	10.3.4(水)	一括納入	10.3.23(月)
	電気・電子工学専攻 12名						
	建設工学専攻 8名						
博士後期課程	材料・環境工学専攻 3名	後期募集	10.2.10(火) 2.18(水)	10.2.26(木)	10.3.4(水)	一括納入	10.3.23(月)

(注) 出願受付は、締切日当日消印有効です。

大学改革

学生による事務窓口評価について

1. 趣旨

本学は今、大学を自ら良くしていこうと、大学改革に積極的に取り組んでいます。即ち、大学の行う教育や研究を始め、学生サービスや大学運営、さらには社会との関わり方をも含め、あらゆる分野での現状の姿を点検評価し、改善に生かしていこうとするもので、着実にやっていることは、皆さんご承知の通りです。そして今回、日頃皆さんが接している事務窓口の対応について、率直な意見、感想を聞くことにし、事務窓口評価のアンケートを行いました。このアンケートを踏まえ、窓口業務の改善を図り、学生サービスの向上に生かしていこうとするものです。

2. 調査方法

学生に無記名アンケートで調査を行いました。

- (1)評価対象 事務窓口業務を担当する部署(計8部署)
 (2)実施期間 7月上旬
 (3)対象学生 605名(20%)、無作為抽出
 (4)回収率 436名(72.1%)

3. 調査結果

各部署毎に、概ね次のようなことを聞いてみました。即ち、窓口利用の有無とその頻度、対応はどうか、的確な助言は得られたか、窓口対応時間や掲示方法は適切か、その他気付いた点や改善すべき事項等を聞き、その他各部署で特に関係のある事項についても、若干ですが聞いてみました。ここでは、紙面の関係もあり、いくつか絞って触れてみましょう。

(1)窓口の対応は親切か？

窓口の対応は親切か、不親切か、普通か5段階で聞いてみました。各部署とも、「とても親切」+「親切」が、「不親切」+「やや不親切」を上回り、総じて親切グループが35%、普通が50%、不親切グループが15%という結果でした。

部門別にみるとかなりバラツキがあり、特に保健室は圧倒的に高い評価を得ました。反面、教務課は、親切グループと不親切グループがほぼ拮抗していました。この親切度は、他大学と比べてどうでしょうか。このような調査は余りないようですが、たまたま愛知県内の或る私立大学で同様の調査をしたところ、親切グループ21%、普通52%、不親切グループ20%、不明7%であり、本学の場合、透色なく、まずは良好な評価と思われます。

(2) 困りごとや不明な点があり、窓口相談した結果、的確な助言が得られたか？

皆さんが、履修や成績のこと、学生生活上或いは施設利用に際して、窓口を訪れた場合、的確なレスポンスやアドバイスが得られたでしょうか、聞いてみました。全体で、「得られた」+「どちらかと言えば得られた」が51%、「わからない」が44%、「得られなかった」+「どちらかと言えば得られなかった」が5%で、肯定的な見解が過半数を占めました。学生課、事務分室、就職指導部でそのウエイトが高く、その他の部署（国際交流センター、図書館）では「わからない」の比率が多くなっていますが、どの部署も否定的見解は数%以下でした。

(3) 窓口対応時間(事務取扱時間)はどうか？

現在、教務課・学生課・国際交流センター・事務分室は8:40～16:20、図書館は9:00～17:30、保健室・就職指導部は8:30～17:00と差がありますが、16:20終了部署に対しては、終わりの延長の要望が40%を占めました。校舎間が離れていることもあり、4時限目終了後の届け出等が間に合わない指摘が多くありました。これを受けて早速、この10月から、30分延長し、16:50終了と改善されました。また、図書館の開館時間については、「現状で良い」57%、「始まりを早く」10%、「終わりを遅く」27%、「わからない」6%という結果でした。もっとも、テスト期間中の開館時間の延長（現状～19:00）については評価されているようです。

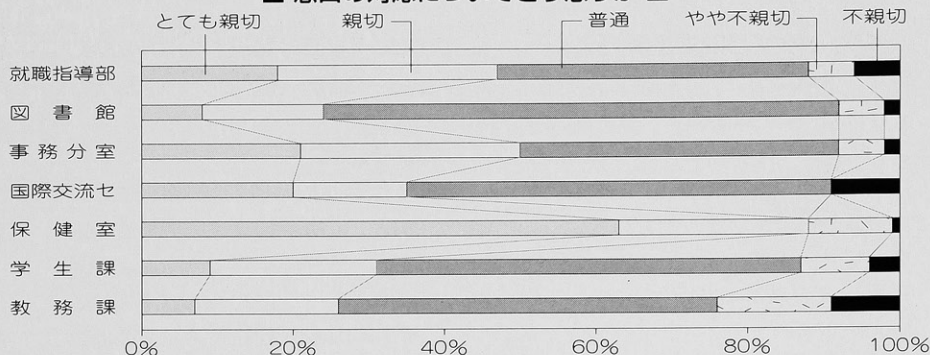
(4) 掲示板等は見やすいか？

掲示板等による情報提供について、場所、内容、方法について聞いてみました。全体で、「わかりやすい」が18%、「わかりにくい」が29%、「何も思わない」が53%と、「わかりにくい」が「わかりやすい」をかなり上回っており、満足してない様子です。共通的に言えることは、ゴチャゴチャして見にくい、貼る位置・貼る内容を整理して、もっと大きく、見やすく、分かりやすく、学年・学科別に識別区分して表示して欲しい等が挙げられました。

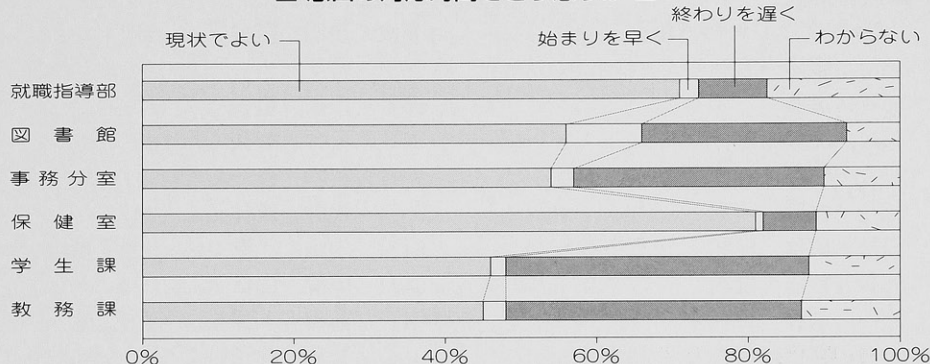
(5) 事務窓口全般にわたる感想・要望等について

各部署毎の質問の末尾に、気づいた点や改善すべき事項を記述してもらいました。ここでは紙面の関係で省略しますが、各セクションでは大いに参考になったと思います。そして質問の最後に、事務窓口全体にわたる感想・要望等について、自由に記述

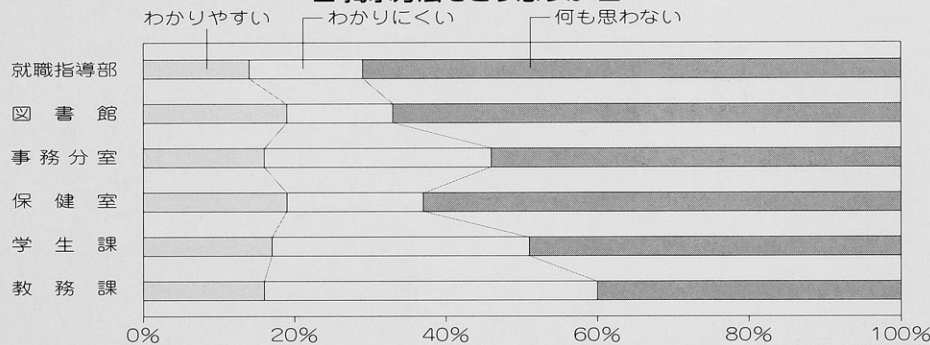
■ 窓口の対応についてどう思うか ■



■ 窓口の対応時間をどう思うか ■



■ 掲示方法をどう思うか ■



してもらいました。全体で76の意見がありましたが、ここでは、指摘の多かった項目や特徴的な意見を挙げてみましょう。

- ・とても親切で良いと思う
- ・これからいろいろアドバイスをお願いします
- ・もっと親身になって対応してほしい
- ・言葉づかいや態度が乱暴
- ・窓口によって差がありすぎる
- ・人によって差がありすぎる
- ・期限限定の手続きは集中するので、人を増やすとか場所をつくるとかしてスムーズに流れる工夫を
- ・提出期限の厳守を。学生に甘すぎる
- ・閉める時間が早すぎる
- ・電話でも対応してほしい
- ・駐車場を無料に
- ・テストの日程発表をもっと早く 等々

4. 事務窓口の業務改善

毎年、夏季休業期間を利用して、事務職

員が一同に会して研修を行っています。今回(8月21日)は、この事務窓口評価アンケートを取り上げました。まず、アンケート結果の報告があり、お互い現状認識を深めた後、小グループに分かれ、改善策について熱心に討議しました。学生サービスの向上を主眼に、やれるものは即実行に移す、ハード面の整備等で費用や時間の掛かるものは、費用対効果をチェックしながらステップを踏んで計画的に推進していく、なかには先生方の協力が必要のため学内で提案していく、或いはこれを行うと別の面で問題が生じ、実施に無理があるというものもあります。いずれにしても、問題点や改善策を整理し、計画的に実施していくこととします。改善の具体的内容については、別途(本誌又は学生部発行「アップルズ」にて)報告したいと考えます。

最後になりましたが、アンケートに協力頂いた学生の皆さんに、心から御礼申し上げます。(事務サービス評価WG)

学内奨学生決定

本学学生の模範とも言うべき特別・一般奨学生を次の皆さんとすることが決定し、去る7月11日に学長を招いて授与式を実施しました。この奨学生制度は平成8年度以前に入学した学生が対象です。今年度以降に入学した皆さんは、新たに設けられた学業奨励生(成績上位者への金券等を支給)への次年度決定に向けて、精一杯学業に励んで下さい。

■特別奨学生

(今年度授業料相当額を支給)

- 96M/栗木 宣幸くん(各務原高校)
 96E/加藤 巧くん(刈谷北高校)
 96C/関口 陽介くん(都島工業高校)
 96A/佐野 洋介くん(富士宮西高校)
 96D/大橋 晴彦くん(大垣工業高校)
 95M/山賀 洋和くん(高山工業高校)
 95E/杉浦 隆司くん(名城大学附属高校)
 95C/酒井 正利くん(松蔭高校)
 95A/宮下志津香さん(七尾商業高校)
 95D/榎田 昇克くん(各務原東高校)
 94M/小林 淳くん(松本県ヶ丘高校)
 94E/假屋 憲くん(向陽高校)
 94C/岩村 俊幸くん(小坂井高校)

- 94A/尾西 弘子さん(星林高校)
 94D/清水 敏弘くん(各務原高校)

■一般奨学生

(今年度授業料の4割相当額を支給)

- 96M/市原 健児くん(加茂高校)
 96M/目片 孝規くん(虎姫高校)
 96E/市川 博紀くん(浜名高校)
 96C/山本 桂路くん(常滑北高校)
 96A/小林 幸恵さん(上田染谷丘高校)
 96D/袴田新太郎くん(浜名高校)
 95M/浅田 英雄くん(大府東高校)
 95M/吉見 圭一くん(安芸府中高校)
 95E/川畑 竜一くん(西尾高校)
 95C/松井 智久くん(松蔭高校)
 95A/杉本 善一くん(浜名湖南高校)
 95D/浅井 康伸くん(豊明高校)
 94M/内山 滋くん(浜松工業高校)
 94M/尾関 由仁くん(江南高校)
 94E/前田 和保くん(桜丘高校)
 94C/廣瀬 俊子さん(椋山女学園高校)
 94A/中西 利葉さん
 (和歌山信愛女子短期大学付属高校)
 94D/佐藤 邦子さん(磐田西高校)

新しい委員会体制が発足!!

32の委員会が15の新しい委員会に衣替えし、本年10月1日から発足します。1995年の自己点検評価報告書の指摘があつてから1年2ヶ月の審議の結果、本年8月の教授会で決定を見ました。新しい委員会になり、委員会活動の効率化(委員会任務の明確化、委員会組織のスリム化)が実行され、教育活動や研究活動が一層活性化し、充実することが期待されています。

新しい委員会

- ・学部運営委員会
- ・大学院運営委員会
- ・将来計画検討委員会
- ・大学評価委員会
- ・研究助成費等審査委員会
- ・人事委員会
- ・教務委員会
- ・教職課程委員会
- ・学生委員会
- ・入学試験委員会
- ・図書委員会
- ・情報教育委員会
- ・就職指導委員会
- ・社会交流委員会
- ・安全委員会



97キャンパス見学会

工学に興味を持つ高校生と父母、高校教員の皆さんにキャンパスを開放する「キャンパス見学会」が8月5日・9月27日の2回にわたって、滝春校舎で実施されました。

入試選抜方法が大幅に変更されるため、「入試の概要説明」や、推薦入試の事前レポートの参考になる「学科別のミニ講義」に、参加者たちは熱心にメモをとるなど、入試に対する真剣な姿が目立ちました。

当日には、その他「学科別の模擬実験」「インターネット体験コーナー」「個別相談コーナー」なども設けられました。

なお、参加者402名に第1回アンケートを実施したところ(回収率84%)、「キャンパス見学会に参加して工学系大学への進学について—興味を持った(82%)」との解答があり、参加者の進路や入試に対する対策に、大いに役立ったようです。

AA セミナーで行く木曽駒研修



AA セミナー(Academic Advising セミナー)は1年次の前期に開講される必修科目です。8人程度の学生が1人の先生を囲んで、入学当初に学習会やスポーツ、会食などを行い、仲間や先生たちとの関わりを深めるなかで、将来の学修計画や人間関係の礎にしようというものです。

そうした絆をさらに育み、本学への愛着を増してほしいとの願いから始められたのがAA セミナー単位で行われる宿泊研修です。研修先は木曽駒高原(長野県木曽福島町)、宿泊先には、今年3月に全面改修した木曽駒ゼミナーハウス、その付近に立地する大同特殊鋼関連企業の保養所

を利用しています。

スクールバスを利用して授業が実施されない週末、土曜日の午前中に大学を出発し、翌日の夕刻に大学へ帰着するものです。行程中に馬籠・妻籠宿の散策、木曽駒森林公園内での魚釣りやバーベキューなどが盛り込まれています。

アンケート(一部のセミナー対象者)では、約8割の学生が「先生や友人との人間関係が深まった」、「普段見学できないのが見学できた」などと「良かった」という感想や、「宿泊研修にもう一度行きたい」と6割を超える学生が答えています。

大学生生活は「自由」のもとに、自主性と責任は学生自身が主体となります。その自覚と行動がコントロールできないと「五月病」や「スチューデント・アパシー」を引き起こし、最悪の場合は退学の要因ともなりかねません、その防止のためにもAA セミナーや指導教員制による研修や日頃のセミナーに自発的に臨んでみましょう。

リーダーズキャンプに参加して すがすがしかった迫力ある学生たちの議論



学生部次長 溝口 健二

〈英語教室 教授〉

今年のリーダーズ・キャンプは、8月1日から3日まで、次期部活リーダーを養成する目的で岐阜県「ひるがの高原」において開催された。参加者は、新旧リーダー78名、引率者5名、総勢83名であった。2台のバスに分乗し涼を求めて出かけたはずであったが、台風か何かの影響で現地はかなり蒸し暑く、この点での期待は見事に裏切られた。しかしリーダーズ・キャンプそのものは、各部が日頃抱える問題点について熱心な議論が展開され、実りの多い3日間であった。

初日から2日目の午前中は、主に各班毎に分かれてグループ・ディスカッションを行い、2日目の午後は全体討議の場を持った。クラブハウス内におけるコピー機の設置や改築されたシャワー設備の利用をめぐって、熱心な意見や要望が出たのがとても印象的であった。この種の行事に参加するとき



は大抵そうなのだが、普段の授業では見られない迫力ある学生の議論を目の当たりにして、学生が頼もしくかつ誇らしく思えてくるから不思議である。部活動の将来を一途に思い込み、議論に熱中する学生の姿は、実にすがすがしく感じられた。と同時に、われわれは自らの責任の重さを感じないではおれなかった。学生のやる気を引き出し、それを育てるために、部活動の活性化につながる施設の整備は無論のこと、学

生生活全般を支援するキャンパスの改善と充実に向けていっそう努力しなければならない点を痛感した。

最後に感謝したいのは学生と十分に話し合える機会が与えられたことである。学生の自主活動になぜ引率なのかしら、と当初は多少いぶかったりもしたが、打ち上げ会での学生との語らいはこの上なく有意義であった。ここで培われた学生との絆は、おそらく

後期の授業に反映されるであろうが、それがどのようなかたちで具体化するのか、楽しみである。

有意義な2泊3日するために

クラブ委員会委員長 吉田 博靖(95D)

今年もリーダーズキャンプを無事に終わることができました。終わってみると、二泊三日と言うのは短いものです。その短い期間を有意義に活用するのは難しいものです。実際に計画を立てる段階で、そのことが一番の問題でした。すべてのクラブにリーダーと次期リーダーが集まり、話し合うというせっかくの機会をどうすれば生かせるのか。

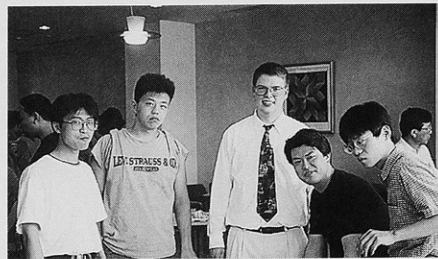
正直なことを言ってしまうと、私自身、リーダーズキャンプというものをどのようにとらえるべきなのか困りました。これは各クラブの方々も一緒なのではないかと思います。せっかくの夏休みの初日から三日の間、束縛されてしまうのですから。だからこそ束縛する立場の私たちが、何らかの意味をこのイベント(?)に持たせるべきだと思いました。そこで、今年はクラブ同士の顔合わせを行うことができればいいと考えました。むろん話し合うべき事柄もありましたが、各クラブ同士の知り合うということは、それ以前の、そしてそれ以上の重要なことだと思います。

クラブ全体で話し合うには、ある程度のクラブ同士の繋がり(横の繋がり)が必要です。そのためのリーダーズキャンプであるとするなら、大変意義のあるものだと思います。その中からクラブの連帯感が芽生えてくれば、各クラブに自覚が生まれ、クラブ活動はもっと活発になっていくことでしょう。

リーダーズキャンプはそんなものだ、と振り返ってみて私は思います。

＝平成9年度＝

学術交流提携校学生受入



オレゴン州立大学より派遣
J. A. Brotherton さん
1ヵ月滞在

この制度は、学術交流提携校の学生に学業支援として奨学金の援助を行い、本学学生との交流を実施し、また学術交流提携校との交流充実を図ることを目的としたものです。

まず平成9年度は、オレゴン州立大学工学部から1名の学生を受け入れることになりました。オレゴン州立大学(OSU)工学部で選考され、推薦を受けた大学院機械工学専攻の Joseph A. Brotherton (Joe) さんが来学しました。

8月15日名古屋に到着し、20日に来学の歓迎会を開催し、スライド・ビデオにてOSUの紹介がされ、出席の大学院生等約25名と懇談をしました。

大学院生研究室にデスクを置き、受入指導教員の機械工学科和田教授のもとで研究指導を受け、学生の協力も得て学内案内・近隣の工場見学等多忙のスケジュールとなりました。宿泊はホームステイで、中村教授・和田教授およびオレゴン大学A.E.Iにて本学の援助で語学研修を体験した94M松尾さん宅でお世話いただき、また大同特殊鋼知多寮のご協力も得ました。

9月11日に送別会を開催し、約1ヵ月間の滞在の感想と多々お世話になったお礼が述べられ、別れを惜しみながら再会できることを楽しみとしました。

今後オレゴン州立大学だけでなく、他の提携校からも多くの学生を受け入れ、本学学生との交流の活性化を目指しています。

平成3年度より学生の学術交流提携校への「海外研修・留学」の援助制度が発足し、毎年数名の送り出しを行っています。また夏季の「短期留学」もオレゴン大学などで実施され本年度で19回となり、多くの学生が海外体験をしてきました。

このような送り出しだけでなく、受け入れ計画を昨年提案し、平成9年度に学術交流提携校学生の受入の制度が発足しました。



第32回 宴祭

自分たちで考え 実践していく大切さを学ぶ

大学祭実行委員会

委員長 藤目卓司(95C)

本学の初夏に華を添える宴祭(大学祭)。今年は「The Spirit of Heroes」という統一テーマのもとで先輩学生と新入学生が力を合わせて熱い盛り上がりを見せ、成功へ導きました。それでは、日程を追って振り返ってみましょう。



・5月25日(日) 仮装行列『美流輝移』

各クラブから募ったみこしを担ぎ、名古屋の中心部である栄地区を練り歩きました。思い思いの扮装をした学生が自分のクラブや大学祭のアピールする姿は沿道でも注目の的でした。

・5月26日(月) 柴田仮装行列

地元にも密着し、近隣の方にも大学祭に来てもらおうと、柴田商店街を練り歩きました。

・5月27日(火) カラオケ大会『音楽宴』

歌唱力、パフォーマンスの各部門別に芸達者(?)が集まりました。ピロティ(図書館前広場)ではドリンク類も振る舞われ、ちょっとした社交場の雰囲気がありました。

・5月28日(水) ミス DAIDO コンテスト

自薦・他薦で集まった女子学生が特設ステージに集合。客席からの質問、ゲームでの得点、客席・審査員の投票でミス DAIDO を決定。建設工学科の1年次生が栄冠に輝きました。

・5月29日(木) 前夜祭

ここではいつも本番前の心地よい緊張を味わうことができます。ドリンク、食べ物が大盤振る舞いされ、滝春校舎のあちこちで思い思いのキャンパスの夕べを過ごしました。

・5月30日(金) ソフトボール大会

腕に自信があるチームが滝春グラウンドに集合し、トーナメント方式で開催しました。試合の合間や、出場しない学生たちは学生ホール棟に特設の会場で、カジノ(もちろんお金はかけません))を楽しんだりしました。

・5月31日(土) 本祭

一番大学祭らしい様相を呈するのがこの日から2日間です。吹奏楽団による演奏で景気良く開幕した後はアマチュアバンドやチアリーダーが次々とステージに登場し、観客を沸かせました。



・6月1日(日) 本祭、後夜祭

ステージが盛り上がっている一方で、教室や学生ホールなどの室内では、学生の研究成果を紹介する工学展やライブハウスや占い、お茶会、インターネット体験コーナーが設けられ、訪問客を飽きさせない工夫が目白押しでした。

楽しかった1週間を飾るフィナーレは滝春グラウンドでファイヤーstormを焚いて迎えました。集まった仲間が歌い、踊り、そして企画から開催まで一人何役もこなした実行委員会のメンバーがステージに上がる頃には観客とステージが一体となり、興奮のボルテージは最高潮となりました。

第32回宴祭を振り返ってみても、正直なところいろいろな事がありすぎて、何から書いて良いか分かりません。

今の自分自身の宴祭への感想は、他のメンバーが寝る時間を割いてまで頑張る、無事に終わることができたという、大学祭実行委員会に対する誇らしさと、自分たちで作ってきた第32回宴祭に対する不満に思う点(たくさんあるので省略)、そして自分の考えの甘さに対する点などが入り交じった複雑な気持ちでいます。

自分が大学祭実行委員会に入会した当初は、はっきり言って辛い事しかなく、なぜこのようなことをしなければいけないのかと思っていましたが、大学祭が近づくにつれ、先輩たちの宴祭に対する情熱が伝わり、委員会における活動が続いていこうと思いました。二年半という期間、周りの人たちに支えられながら、委員会のメンバーとして、現役としての活動を終わることができ、今思うと、大学祭実行委員会に入会していなければ、何をしていたんだろうと思うほど、いろいろなことを学ばせてもらいました。物事をするにあたり、与えられた環境のなかで批判することしかしなかった自分が、宴祭を運営するにつれ、他人から物事を強制される立場を離れ、自分たちで考えながら物事をなしていく大切さを、大同工業大学大学祭実行委員会に入っていなければ、学ぶことはできなかったらと思います。

第32回宴祭は自分たちにとって失敗でもあり、成功でもあったと思います。そして後輩たちが、自分たちができなかった何かを、第33回宴祭を見せてくれることを願い、これから勉学に励んでいこうと自分に言い聞かせている次第であります。

日本塑性加工学会賞「功労賞」「会田技術奨励賞」受賞



「功労賞」

機械工学科 教授 中 島 浩 衛
(工学博士)

昭和31年、東北大学機械工学科卒、現新日本製鐵(株)入社、以来平成7年に本学教授就任まで、40余年にわたり鉄鋼界に身を置き、プレス、鍛造および圧延加工など塑性加工全般にわたり研究・開発を推進。とりわけ圧延技術では、今日、世界的に定着した6H i 圧延機などに代表されるクラウン・形状制御圧延機の実用化や、同制御技術の体系化を測るなど、日本の鉄鋼業の圧延技術力向上に多大の貢献をされてきました。昭和56年には「大河内記念賞」受賞など受賞歴も多彩です。加えて塑性学会活動に対する長年の功績に対して「功労賞」受賞となったものです。

中島教授にインタビュー

「日本の経済、産業を支えているのは、90%をしめる中小企業群です。これらの生産現場にもつながるような Core Technology 課題の基礎的研究と応用を目指した産・学共同のネットワーク研究をやっていききたいですね」

「環境付加という表現があります。例えば自動車の軽量化による燃費の軽減とか、そのための材料開発が必要です。今金属材料の組織構造予測のための研究をアーヘン工科大学と共同で進めているのですが、そうした新しい方向で見ると、研究テーマ・開発は日進月歩しています」

「授業で“品質管理”を教えておりますが、これは日本の生産技術のスピリット、マインドなんです。アメリカ・マサチューセッツ大学では一番の人気科目ですし、日本の工科大学の機械工学科で“品質管理”を教えているのは本学だけなんです」

こうした体験・学習を通じて、時代の認識と歴史観を身につけた技術者の教育をと、中島教授の抱負は広がります。

平成9年度日本塑性加工学会賞のうち、本学の中島浩衛機械工学科教授が「功労賞」を、また大学院博士後期課程の五十川幸宏さんが「会田技術奨励賞」を受賞し、表彰を受けられました。

そこで、お二人に受賞の対象となった研究テーマや今後の抱負などを伺いました。

「会田技術奨励賞」

95 Z D 五十川 幸 宏

本賞は塑性加工分野における学問・技術に関する優れた業績者に与えられる賞であり、五十川さんのテーマは『鍛造用皮膜・潤滑剤の評価方法「スパイクテスト」の開発』での受賞でした。

学生ニュース「APPLES」に掲載された五十川さんの文章から研究内容や抱負などを転載します。

「APPLES」より掲載

今回受賞したテーマは現在研究を続けている『難加工性材料の鍛造技術に関する研究』の一部に相当します。

塑性加工において、被加工材(材料)に工具を押しつけて変形を加える時、非加工材の表面が拡大するために工具と非加工材が直接接触する現象が起こります。直接接触により、焼付きが発生し、それ以上の加工を進めるのが困難になります。鍛造のように大量にものを作る生産技術に対してはコストアップや生産性の阻害となります。そのため、鍛造品を製造している自動車会社や鍛

造専門の会社は皮膜・潤滑剤を開発している企業と共に新しい塑性加工用皮膜の開発に力を注いでいます。

皮膜・潤滑材は加工による表面拡大に追従する十分な展延性と強度が必要です。塑性加工の中でも鍛造加工はその新生面の拡大が大きく、従来の評価方法では必ずしも良い結果を得ていませんでした。そこで「同心円の溝を有する上型により円柱状ビレットを、傾き角が10度のテーパ面と半径5mmの円弧でつながるテーパ状絞り部にかかる下型に押しつけて、その時の盛り上がり高さの大小により皮膜・潤滑剤を評価する」方法を開発しました。今回開発した方法によると、被加工材を室温から熱加工温度域まで過熱した状態でも、適用される皮膜・潤滑剤の評価が可能となり、日本の企業のみならず、外国でも利用していただいています。

本件は、本年度提出予定の学位論文の研究の一部であり、大学における研究が企業の生産活動に大きく寄与していることを、工学を専攻している学生として大いに誇れることだと思っています。

情報処理センター 教育研究用システム更新！

センターシステムが平成9年10月より一新されました。今回の更新基本方針は、

- ◆ D I C N E T を中心とした分散型システム方式を継続
 - ◆ 時代に即した教育が実施できるハードとソフトに更新
 - ◆ 利用制限の緩和とし、計画を推進してきました。
- 更新されるシステムの特長は次のとおりです。

【教育用システム】

- ◆ Pentium Pro (200MHz) を搭載する最新のクライアントシステム
- ◆ Windows NT 4.0 と Linux (Unix) を搭載するマルチOS
- ◆ ファイルサーバーの新設により学生一人当たり5MBのホームディレクトリを提供

- ◆ インターネット利用を演習室からも可能とする

【オープン利用】

- ◆ 時間外利用可能な施設の拡大(大同第2演習室および白水演習室)
- ◆ センター施設以外でも教育用システムを利用できるようサテライト(大同、滝春、白水の各自習室および図書館)を設置

【研究用システム】

- ◆ CPUにPA-8000を搭載した最新のUnixワークステーションに更新(SPECint, SPECfp 比3~4倍)

【ネットワークシステム】

- ◆ 名古屋大学間および校舎間の回線速度の増速(64Kbps → 128Kbps)
- ◆ 学内向けのWWWサーバとNewsサーバを設置し、情報交換・情報発信を活性化

平成9年度
学士院賞受賞

山寺秀雄名誉教授による「特別講演会」



具体的・印象的な講演に深い感銘

平成9年8月2日 大同工業大学名誉教授山寺秀雄博士による「21世紀の環境と暮らし」と題する講演会が名古屋ガーデンパレスで開かれ、大勢の参加者に深い感銘を与えた。



この講演会は、同名誉教授の平成9年度

の学士院賞受賞を記念して、大同工業大学生涯学習センターの企画主催のもとに開催されたものである。山寺博士の学士院賞受賞対象は『金属錯体の分光学における山寺則の創始と配位構造の研究』である。

化学の学究の徒として、豊かな学殖にもとづく環境問題は、「人間活動と環境破壊」として、わかりやすく解説が加えられた。酸性雨の問題、フロンによるオゾン層破壊に伴う紫外線増加の問題、二酸化炭素濃度の増加による地球温暖化の問題など、その実態の紹介と取り組みに関して誰にもわかりやすい内容であった。これらの話の実例の中にあつた、「ドイツではエネルギー対策としてビールはビンにつめ、アルミ缶は使わ

ない」とか、「原子力船むつの放射能もれは、全く問題なかったのにマスコミの騒ぎで使用不能となり、以後の原子力利用に問題を生じた」など、具体的、印象的な講演であった。

会場には、山寺博士の愛知一中時代の同級生15名を含め、一般市民、大学関係者など約200名参加の盛大な講演会であった。

余談であるが、山寺先生は極めて雄弁に講演されたが、自家薬籠中のことながら、この学者にして前日2回練習をされたとお様におかがいして敬服した。聴講者はひとしく見習うべきことである。

講演会終了後、学士院賞受賞祝賀会が関係者相集い、山寺秀雄名誉教授ご夫妻を囲んでなごやかに開催された。

日本学士院賞受賞の研究『金属錯体の分光学における山寺則の創始と配位構造の研究』の主要な内容の説明

遷移金属錯体(コバルト、鉄、銅などの金属イオンを囲んでアンモニアのような分子や塩化物イオンのようなイオンが結合したもの)はそれぞれ特有の色を持つ。

山寺は、量子化学の方法を用いて金属錯体における結合の新しいモデルを創始し、そのモデルを用いて金属錯体の色すなわち吸収スペクトルと構造との関係などについて研究した。その成果の一つが山寺則と呼ばれる規則で金属錯体の研究に広く利用された。

平成9年度(第4回)「研究報告会」
— 環境をテーマに開催 —

9月26日(金) 13時から17時まで、メインテーマを「環境」とする「研究報告会」が、大同校舎9403講義室で開かれました。

基調講演は(名古屋大学工学部教授) 松尾稔客員教授の「パラダイム転換の観点から見た工学の動向」。

以後、本学教員による研究報告が各30分間行われ、終了後は9号館1階喫茶室で懇親会が開かれ、研究報告に対する情報交換がなされました。なお、報告内容の概約を掲載します。

パラダイム転換の観点から見た工学の動向

名古屋大学工学部教授

客員教授 松尾 稔



パラダイムとは、その時代を画した支配的考え方・枠組を言い、現代の混迷・停滞を打ち破るために、工

学をはじめ各分野で、パラダイムの転換が求められている。

現代は科学技術の時代と言われるが、自然法則を追求する理学と異なり、工学は社会的目的をもって、常に社会の動向の影響を受けてきた。例えば、豊かな生活を求めて発展した工学は、自然とのバランス、細分技術の統合、大衆教育システムの見直しなどが強く求められている。日本学術会議第5部でも、従来の機械・土木などの領域分野に加えて、複合分野、例えば「人間と工学」といった新しい工学を推進する方向にある。

濃尾平野における地盤環境保全のための地下水管理

建設工学科土木工学専攻助教授

大 東 憲 二



濃尾平野は、かつて全国でも有数の広域地盤沈下であったが、現在では揚水規制の効果により地下

水頭は上昇し、地盤沈下も沈静化しつつある。しかし、地下水頭の上昇が地盤の不安定要因となることも懸念されている。また、平成6年の全国的な異常渇水時には、地下水が表流水の不足の一部を補う貴重な水資源として役に立ったものの、一時的な大量の地下水汲み上げにより、地下水頭が地盤沈下の生じる可能性のある深さまで低下し、広域地盤沈下が発生した。

このように、広域地盤沈下を再発させない範囲で地下水の有効利用が望まれていることから、濃尾平野の地盤構造と地下水頭変動履歴などを考慮して、常時、注意報時および警報時の管理地下水頭分布を設定した。そして、常時管理地下水頭分布に対応した揚水量を数値解析により逆算し、現在の規制揚水量と比較した結果、地盤環境保全のためには、現在の揚水規制を若干緩和した方が良いことが分かった。

振動傷害(振動病)の推移とその現状

一般教養(物理)

教授 兼 田 喜代志



戦後、各種産業界の機械化や能率化に伴い、手持ち振動工具が盛んに導入されるようになった。林業

ではチェーンソーなどが、一般工場などではチップングハンマー、ブレーカ、インパクトレンチなどがそれである。その結果、林業での“はくろう病”で代表される手指の振動傷害(振動病)が発生して大きな社会問題となった。その原因は、主として振動工具の振動加速度の大きさと寒冷などに対する労働環境の欠如によるものであろう。現在では、それらの発生率は関係者の努力により極めて少なくなりつつある。発表者はほぼ1970年頃から、これら振動工具の防振装置の開発に主として工学面から関与してきた。また、振動測定的面から医学者との共同研

究などもおこなってきた。これらの推移と現状を労働衛生と工学の両面から述べた。

住居周辺の音

応用電子工学科

教授 三 品 善 昭



騒音に係わる環境基準が昭和46年6月に閣議決定公布されて以来26年余りが経過したことになる。そ

の間自動車社会の進展と、住宅の高密度化、高集積化なども相まって、環境行政の推進や国民の環境意識の向上にもかかわらず、都市における騒音環境は依然として厳しく改善の兆しさえ見られないのが実状である。

環境基準の適合率や行政に寄せられる苦情件数について述べるとともに、我々が名古屋市域で測定している、住居に到来する音のレベルの測定データをもとに、都市騒音の特性について解説した。さらに、都市騒音には、住居周辺の交通量と幹線道路までの距離が大きな要因となっていることを述べた。

気体放電を用いた空気清浄装置

電気工学科

教授 関 谷 昌 久



近年、居住空間における環境への関心が高まり、多種の空気清浄装置が開発・市販され、オフィスや

一般家庭でも使用する機会が増している。また業務用として、クラブハウスのロッカールームにおける一種独特な臭いの消臭、焼肉やファーストフード関係の厨房から排出さ

れる排気中のオイルミストや臭い等を除去する装置の開発には強い関心を持たれている。

気体放電を用いた小型空気清浄装置の開発を行っており、空気清浄の目的で用いられている装置の内、殺菌・脱臭を目的とするオゾン発生装置と塵埃を電気的に除去する電気集塵装置について解説した。また、一般に使用されている直流式電気集塵装置では捕集しにくい高抵抗率のオイルミスト除去を目的とする、交流式電気集塵装置についても言及した。

環境のためのエクセルギー解析に基づく最適潜熱蓄熱システムの一考察

機械工学科

教授 中 村 肇



エネルギー問題と地球環境問題とは極めて密接な関係があり、省エネルギー対策は今日の大きなテーマとなっている。周知のように、最近夜間電力を利用した氷蓄熱式の冷房システムが普及しつつあるが、このような冷熱の利用

ばかりでなく、種々の温度レベルを利用した蓄熱技術は、熱エネルギーの需要と供給の様々なギャップを補間する技術として、今日の社会ではますます重要となっている。そして、潜熱を利用する技術は、土地の狭い我が国にとって設置面積を小さくできることから普及が大いに期待されている。このエネルギー評価としては、エネルギーの量としてだけでなく、温度などの質の評価も重要であり、本講演ではエネルギーの量と質を含むエクセルギー解析に基づいて、私どもが行ってきた最適システムの簡便な考え方に基づいた手法並びに結果について述べ考察した。

環境問題をテーマに公開講座開講

今年4月より、地域と共生するとともに、社会へ開かれた大学を目指し「人間と自然—環境問題複合体へのアプローチ」を

テーマとした総合講座が大同校舎で開講されています。本講座は「環境問題」を焦点に、本学の教員の専攻分野をリレー方式につなぎ多面的な情報提供をする中で、本学の学生と社会人が席を同じくして理解を深めようとする試みです。

月 日		講 師
10月17・24・31日	大気化学—地球規模の環境問題—	大同工業大学化学教室教授/酒井 陽一
11月7・14・21日	振動公害	大同工業大学物理学教室教授/兼田喜代志
11月28日・12月5・12日	電磁気と生体	大同工業大学応用電子工学科教授/稲垣 米一
12月19日	パネルディスカッション	

図書館

1. 指定図書を知っていますか？

◇指定図書って何のこと？

授業科目を担当されている先生が、その授業をよりよく理解するために役に立つ書籍を選んで、指定されたものです。

また、後期からはシラバスに載っている各授業の参考書も指定図書として配架することになりました。

◇図書館のどこにあるの？

1階参考図書閲覧室の入口寄りの、木製書架にあります。(上に表示が乗っているからすぐ分かるよ)

◇貸出してもらえますか？

指定図書は参考図書と同じ扱いで、館内利用しかできません。でも!! 同じ書籍が2、3階の貸出できるフロアーにも配架してあります。

♪ 指定図書コーナーで本の内容と請求記号(背表紙のラベルの番号)を確認して→2、3階で請求記号を手がかりに本を見つけて→貸出手続き♪が、おすすめコースです。

もちろん、検索機で本の所在を確認することもできます。

2. ほかの授業の教科書も読んでみませんか？

◇教科書も置いてあるの？

図書館では、新しく教科書コーナーを設置する予定です。このコーナーは、すべての教科書をまとめて展示することにより、少しでも授業の内容について知ってもらおうというものです。特に、履修登録の際などに参考になると思います。

場所は1階参考図書閲覧室、いちばん手前の新着図書コーナーの隣を予定しています。

3. カウンターでリクエストしていますか？

◇何がリクエストできるの？

図書館に見たい資料が“ない”なんていうことはありませんか？ そのようなときは図書館にリクエストして下さい。

たとえば、

- ・新聞で見た『□□□』という本がない
→資料購入希望の申し込みをして下さい。図書館が購入します!
- ・研究で必要な『△△△』という論文がない
→文献複写の申し込みをして下さい。他大学の図書館などから論文のコピーを取り寄せることが出来ます。

また、こんな場合でも…

- ・○○○に関する資料を探している。だけどどこにあるのか分からない…
- ・◇◇◇について調べたい。だけど調べる方法が分からない…

→“○○○について資料がほしい、◇◇◇について調べてほしい”とサービス・カウンター《レファレンス》へ来て下さい。資料のある場所の案内や資料の探し方の説明、一緒に調べたり調べ方をアドバイスするなど、研究・調査の援助をしています。

図書館は皆さんに必要な情報を提供するところです。図書館にないもの、よくわからないことなどがありましたら相談して下さい。

<図書館の開館スケジュール>

1. 土曜日の臨時休館について

平成9年度から、土曜日は授業がなくなりました。これにともない、図書館は臨時休館日としています。

2. 長期休業期間中の開館時間について

春・夏・冬季休業期間中は、時間を変更して開館します。

月～金曜日 9:30～16:30

また、休館日もありますので注意して下さい。
各休業期間中の開館時間、休館日については、その都度掲示でお知らせします。

学生室

■学内奨学生制度が大幅改正されました

従来、学業優秀者に対する奨励金としての性格が強かった学内奨学生制度を、経済的理由による修学困難な学生に対する支援事業へと改めました。以下に種別ごとに要点をお知らせします。なお、詳細については入学時に配布された『ATTENTION PLEASE'97 (学生便覧)』の28ページもご参照下さい。問い合わせ窓口は学生室です。

●大同工業大学貸与奨学生

- ①条件…修学心が旺盛でありながら、経済的事由により修学困難な学部学生(対象は平成9年度以降の入学者となり

ます)。ただし日本育英会またはその他諸団体の奨学生でないこと。

- ②貸与月額…30,000円
- ③返還方法…貸与金額全額を卒業後10年以内に返還
- ④募集時期…4月。今年度は10月にも募集を行います。

●大同工業大学緊急時特別奨学生

- ①条件…3・4年次の卒業が見込まれる学部生で、家計支持者が失業(定年、自己都合退職を除く)または倒産、被災、長期療養、死亡、及びこれに準ずる者。
- ②貸与金額…授業料、施設協力費年額の2分の1相当額
- ③返還方法…貸与金額全額を卒業後10年以内に返還
- ④募集時期…原則として5月、9月

■奨学生募集のお知らせ

学業が優秀かつ修学心が旺盛であるにも関わらず、経済的に困難であるために修学が困難である学生を対象に、下記の奨学生を募集します。希望する方は、学内掲示および『ATTENTION PLEASE'97 (学生便覧)』を参照のうえ、願して下さい。

①奨学生種別

日本育英会奨学生および大同工業大学貸与奨学生(以下「貸与奨学生」と略)

②貸与月額

日本育英会…自宅通学者49,000円、
自宅外通学者59,000円
貸与奨学生…通学形態に関係なく
30,000円

③募集対象

平成9年度に学部1年次に入学した者。
現在日本育英会奨学生である者、外国人留学生、委託学生は対象となりません。

④募集人数

日本育英会…若干名
貸与奨学生…10名

⑤問い合わせ先

学 生 室

編集後記

第22号の発行は、国際交流関係の記事を掲載するために発刊が予定より遅れ、ご迷惑をお掛けしました。お詫びいたします。

なお、今回の発行をもって、担当所管が広報室から社会交流センター事務室へ移ります。今後ともよろしくお願いします。

